

「最初のうちは本人の働きたいという気持ちが高く、2回目(3年時の秋)の実習の後、卒業を待たずに雇用したんです。仕事に関しては、少し覚えるのに時間がかかるかなくらいで、ほとんど普通の子と変わらない。いい意味で驚きました。ただ、こちらも初めてで、今思えば、接し方もよく分かってなかったんですね。あれはさせられない、これもダメと過度に特別扱いをしてしまい、それが本人には不満だったようです。またまった金額の給料が入るようになってからは、飲み歩いたり、夜遅くまで遊んだり、私生活が乱れがちになってしまっていました。私たちがうまくフォローできず、結局1年半で退職することになりました。本来、特別支援学校を卒業した生徒を雇用する場合は、特別支援学校や大分障害者職業センター(ジヨブコ)への支援が受けられます。しかし、この時は卒業前の雇用だったため、その制度を知る機会がなく、会社だけで抱え込んでしまったようです。支援が受けられていたらもっと彼に

**失敗から多くを学んだ
初めての障がい者雇用**

は順調に進んだものの、雇用後は戸惑いの連続だったといいます。

事業主のみならず

法改正のお知らせ

Point 1 障がい者の法定雇用率が段階的に引き上げられます
(令和6年4月以降)

| | 令和5年度 | 令和6年 4月 | 令和8年 7月 |
|------------|---------|------------|------------|
| 民間企業の法定雇用率 | 2.3% | 2.5% | 2.7% |
| 対象事業主の範囲 | 43.5人以上 | 40.0人以上 | 37.5人以上 |

Point 2 除外率が引き下げられます
(令和7年4月以降)

除外率設定業種ごとにそれぞれ10ポイント引き下げ

Point 3 障がい者雇用における障がい者の算定方式が変更となります

- **精神障がい者の算定特例の延長** (令和5年4月以降)
週所定労働時間が20時間以上30時間未満の精神障がい者について、当分の間、雇入れからの期間等に関係なく、1カウントとして算定
- **一部の週所定労働時間20時間未満の方の雇用率への算定** (令和6年4月以降)
週所定労働時間が10時間以上20時間未満の精神障がい者等について、0.5カウントとして算定

詳しくは右記バーコードよりご確認ください



てあげられることがあったと思います。実際、支援を受けるようになって驚くほど順調になりました。毎月、困りごとはないですか?と訪問してくれるので心強いですし、お金の管理など踏み込みにくいプライベートなことへのアドバイスも参考になります。関係機関との連携は障がい者雇用において非常に重要だと痛感しました。過去の反省を踏まえ、現在は障がい者雇用の社内担当者が、支援学校や関係機関と密に連携をとりながら、障がい者のサポートにあたりたいと思います。

障がい者の持つ可能性を実感

これまで障がいのある社員は、車検時の下洗いや、納車準備、簡単な色塗りなど補助的な作業に従事していました。が、昨年入った3人は整備の現場に配属されました。「最初はうちの主力である大型整備部で研修をしてもいい、岡本さんと大石さんはそのまま大型整備部に、集中力が高い福本さんはその特性を活かせそうな架装部に配属しました。3人もレベルが高く、直接現場作業員の下で働いています。大型整備は工具の数が多く、健常者でも覚えるのが大変ですが、岡本さん、大石さんともにすでに軽整備ができるまでに成長。架装部の福本さんも溶接など集中力が必要な作業をしっかりとこなし、それぞれの現場で欠かせない戦力として活躍しています。現在、3人は3級整備士、溶接の資格取得を目指して勉強中です。障がい者にとって簡単なことではありませんが、条件(現場経験年数)をクリアできれば、取得できる可能性は十分にあると思っています」と安東社長も大きな期待を寄せています。



企業現場

Corporate data

〒870-0901
大分市西新地1丁目1番11
TEL.097-558-1349

株式会社土屋車輛



ある言葉に背中を押され、障がい者雇用をスタート



▲代表取締役 安東直樹さん

大型車両や特殊車両等の製造からメンテナンスまで幅広く手がける土屋車輛は昭和50年創業。7年前から積極的な障がい者雇用に取り組み、現在は4名の障がい者が働いています。「障がい者雇用を始めたきっかけは、大分県中小企業家同友会の障がい者問題委員会から声をかけられたことです。ただ、うちは重整備を行う会社で、どうしても作業に危険が伴う。最初は無理だと思っていました。そんな安東社長の考えを変えたのは、健常者だって、職場に危険があったらダメなのでは?という素朴な指摘でした。たしかに、障がいの有無に関係なく職場に危険があったらダメだよな、誰か働いても安全な職場にしないと。ストーンと納得できたんです。そこから特別支援学校の実習を受け入れ、そのまま雇用したところまで

会社がよい方向に 変わるきっかけに

障がい者雇用を始めて以来、様々な面で会社がよい方向に変わったといえます。まず安全面への意識が高まりました。仕事をすることで障がい者はもちろん、健常者も危険なのはダメだと、環境づくりをしっかりとしなければなりません。当り前のことではあるんですが、改めて気付かされた感じがします。一人ひとりの意識が変わったからか、それまでになか社内でも浸透しなかったらSS、3Sも自然と定着しました。他にも、障がい者が簡単に使えるように工具を工夫したり、トイレを和式から洋式に変え



▲真剣に作業する大石さん。常に報・連・相を心がけているそう。

たほか、障がい者やその保護者とともに働く従業員の声を取り入れながら、少しずつ社内環境を改善。その結果、障がい者だけでなく、全ての従業員が働きやすくなったと感じているようです。そしてもう一つの見逃せない変化が、作業効率の向上。「僕らの業界には、一台の車を一人が責任を持って仕上げるという暗黙のルールがあります。でも実際は、核となる作業（資格者でなければできない難易度の高い作業は2、3割しかない。そこで、仕事の切り出しを行い、補助的な作業は障がい者に任せることにしました。分業制ですね。そうすると、全体の作業効率が大きく向上したんです」。安全面に対する意識改革、職場環境の改善、作業効率の向上—それらは様々なメリットをもたらし、会社の躍進を大きく後押ししています。

全部門に障がい者雇用の 価値が浸透

現在、土屋車輛は6部門中3部門（大型整備部、小型整備部、架装部）に障がい者を配属していますが、今後、全部門に配属したいという思いがあります。「障がい者雇用に踏み切ったときは躊躇



▲車が大好きな福本さんは楽しそうに作業をする姿が印象的。

躇していた部門からも「うちに欲しい」という声が上がっています。実際の障がい者の働きぶり、成功例を間近で見てきたからでしょうか。もちろん、営業会議や役員会議で地道に現場理解を醸成してきた成果もあると思いますが、そういう声が現場から上がる—これほど嬉しいことはありません。大型整備部工場長の足立さんも「最初は障がい者と働くことに不安もありましたが、教えたことはしっかりとやってくれるし、能力は想像以上。指示の出し方を分かりやすくしてあげたり、少し配慮するだけで十分戦力になってくれま

す。みんな面白い子で、コミュニケーションも問題ありません。すっかり馴染んでいます」と高く評価しています。「障がい者雇用には、人手不足の解消、業務の効率化など、企業にとって多くのメリットがあります。支援制度も充実しているのでも、まずはぜひ実習を受け入れてみてください。実際に会って話せば、障がい者のイメージが180度変わると思います。様々な経験から、障がい者雇用の持つ可能性の大きさを実感した安東社長。その言葉にはとても説得力があります。

3級整備士を目指し 頑張っています！



「Voice」
入社2年目
岡本 順生さん
特別支援学校卒
知的障がい
大型整備部所属

■大型車両の整備 ■整備の補助作業

入社3年目は高校3年のときのまじろ、土屋車輛の人たちがすごくあたたく接してくれたので、「ここで働きたい」と思いました。今は大型車両の軽整備を担当しています。たくさんある工具の種類や、複雑な作業内容を覚えるのは大変ですが、こまめにメモしたり、写真を撮ったりして、間違えないように対策しています。嬉しいのは、それまで出



▲先輩とのコミュニケーションも良好

安東社長より
とにかく真面目で一生懸命。恥ずかしがり屋ですが、障がいを感じさせない、むしろ健常者よりしつかりしているのでは？と思うことも多々あります。もちろん、現場の評価も上々です。

来なかったことが出来るようになったんです。先輩に「しつかりしたほうがいいよ」とやり方を教えてもらいながら、自分でもいろいろ工夫しています。今後は少しずつ出来ることを増やして、仕事の幅を広げていきたいと思います。そのために3級整備士の資格取得を目指し、勉強中です。あと、免許をとったので、車の運転もしてみたいです。いつか自分の車が持てるよう、貯金も頑張ります。



溶接の資格取得を目指し勉強中！

入社2年目
福本 武さん
県立高校卒 知的障がい
架装部所属

車が好きだったので、この仕事を選びました。今は架装部で溶接や洗車、色塗りなどをしています。お客様の車を傷つけてしまつと大変なので、一つひとつの作業に細心の注意を払っています。目標は架装部で1人1ヶ月100万円稼ぐこと！売り上げアップに貢献できるように頑張りたいです。



3級整備士を目指し勉強中！

入社2年目
大石 剛司さん
特別支援学校卒 知的障がい
大型整備部所属

大型整備部で軽整備をしています。最初は仕事を教えてもらつても、失敗したり、時間がかつたり、うまくいかないことが多かつたのですが、最近はきちんとできることが増えました。少しは成長できたのかな。褒めしをやるようになって、自分の甘さ、親のありがたさも実感しています。

支援学校からの就労の流れ

